

奈良女大家政 今井範子 ○田中理恵 扇田信、聖母女学院短大 深澤久美、松下電工 橋本良子

目的：最近の住宅雑誌で、「家事室」や「ユーティリティ」等の名称で家事作業のための独立したスペースを設けたプランをよく見かけるが、それらは単に余ったスペースに設けてある場合が多く、居住者にとって使い易いものであるかどうか疑わしい。そこで本研究では、現在家事室のある住宅を対象に聴きとり調査を行い、本報では、プランの概況、利用状況及び問題点を探り、家事室の有用性をチェックすることを目的とする。

方法：第4報を参照

結果：①家事室はそこに含ませる機能的特色から、「洗濯専用ユーティリティ」、「ウエットな家事室」、「ドライな家事室」の3つの型に分類できる。（「」内語句は第4報で定義）②住宅購入時、大半の主婦が家事室に何らかの関心を寄せており、比較的年齢の若い30才代の主婦でその意識が高い。③概して、家事室はあまり使われていないのが現状であるが、3割程度の家では、洗濯物の整理・アイロンかけ・繕い物・ボタンつけなど、ごく日常的な作業を常時そこでやっていることは注目される。家事室を使わない理由は、「狭い」、「日当たりが悪い」、「干し場から遠い」が大きくあがっている。一方、「洗濯専用ユーティリティ」を除いて、雨天の干し場としても家事室は比較的よく利用されている。④家事室は、以上のような日常の衣料関連作業空間としての機能の他に、例えば、アイロンの必要なものやクリーニングに出す前のものをためるなど、家の中に散乱しがちな物の整理整頓のための緩衝部分としても有用である。